

地域医療連携だより

H21.5
第21号



兵庫医科大学病院

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL.0798-45-6111(大代表)
TEL.0798-45-6035(地域医療・総合相談センター)



病院長就任のご挨拶

笑顔とコミュニケーション豊かな病院を目指して

病院長 太城力良



4月に病院長に就任いたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。

当院は地域の皆様に支えられて、年間延べ約30万人の入院患者さん（うち手術数8000件超）および約60万人の外来患者さんの診療を行っています。組織的には33の診療科と救命救急センター、がんセンター、PETセンター、健診センターなどの27の中央診療施設に細分化して、きめ細かな診療体制を提供し先進医療も提供しています。研修医を含めると500名を超える医師が診療に従事する大所帯で、

院内の情報伝達・連携の一部が機能しないで患者さんや紹介元施設にご不自由・ご不満をおかけしている面もあると思います。今後、患者さんや紹介元施設に納得し満足して頂くために、院内のコミュニケーション能力やIT化を向上させて、病院全体が一つの有機体として機能できる体制を目指していきます。また、患者さんの思いや紹介元施設での治療などをきちんと把握し、ご自分の病気や治療の内容を十分に理解して積極的に医療に協同参画していただけるよう患者さんとの良好なコミュニケーションを達成します。さらに、当院での診療経過を紹介元施設に丁寧に報告し逆紹介するシステム、すなわち、日常の診療は紹介元主治医にお任せし、急変時や年数回の定期検査時は当院医師が担当する「二人主治医制」で地域連携をさらに深めたいと思います。そのためには、地域連携をお願いしている病院、診療所、介護施設と日頃からの密接なコミュニケーションを実現し、自由活発な問題点のご指摘やご提言をたまわり、「Yes, we can」と変革していきたいと存じます。患者さんが良くなりその笑顔を得るため、教職員が心身ともに健康で笑顔で地域とコミュニケーションできる病院にしたいと思っています。今後とも、よろしくご指導・ご鞭撻のほどをお願いいたします。

副院長就任のご挨拶



副院長 (地域連携・経営企画担当)

内科 糖尿病科 診療部長 (主任教授) 難波光義

このたび、地域連携・経営企画を担当させて頂く副院長を拝命致しました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本院はこの阪神南医療圏域における唯一の大学病院として、複合的で重要な任務を担ってまいりました。今後はこれまで以上に皆様の大きな期待に応えなければなりません。幸い、太城新病院長を補佐する3名の副院長が個々の守備範囲を固めるのみならず、院内各部署のメディカル・コメディカルスタッフや事務職とも緊密で即応性のある情報交換をしながら互いを補填し合おうと『やる気十分』のスタートを切っております。時々刻々と変貌しつつある今日の医療界において、地域の方々のニーズに応えられるより上質の中核病院を目指して微力を尽くす所存でございますので、ご指導ご高配の程、よろしくお願い申し上げます。



副院長 (安全管理・教育研修担当)

整形外科 診療部長 (主任教授) 吉矢晋一

このたび、太城前副院長の院長就任に伴い、そのあとを引き継ぐ形で、医療安全、教育研修担当の副院長を拝命しました。

私が兵庫医科大学病院で仕事をする機会をいただいて以来、早いもので4年が経過しました。その間自分に課せられた仕事をこなすのに精一杯で、病院全体のことなどはあまり考える余裕もなく過ごしてきたのですが、このたびのご指名は光栄に存じるとともに未だ戸惑いも覚える日々です。自分は卒後30年になりますが、その間、大学病院にいたよりも市中の病院にいた期間の方が長く、西宮市内の明和病院には13年半在職していました。そういった経験のなかで、地域の第1線の病院で臨床をされている先生方の状況やお気持ちを実感できるというところはあるのではないかと、思います。まだまだ未熟な人間であり、このような重責を果たしていけるのかという気持ちもありますが、病院の基本理念にもある「患者の立場に立った医療の実践」「地域の医療機関との円滑な連携」を基盤に、力を尽くしてこの職を努めていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。



副院長 (療養環境担当)

看護部 部長 山田繁代

先生方におかれましてはご健勝にてご活躍のことと存じます。

平素は何かと兵庫医科大学病院にご協力を賜りありがとうございます。

このたび太城病院長のもと、療養環境担当副院長を拝命いたしました。看護師は日常患者さんと密着した立場にあり、院内各部門と横断的に関わる機会も多く、病院における多くの問題が見えやすいうえ、院内でコーディネーターの役割も果たしております。それぞれの部門の技能や専門性の纏め役として、病院内職員間のコミュニケーションづくりから地域との連携、癒しの環境づくり等「選ばれる病院」をめざして、職務に専念して参る所存でございます。

今、地域におけるスムーズな医療機関の連携をめざした「切れ目のない医療」が提唱されています。当院、地域医療・総合相談センターでは専任の看護師・保健師を配置し、当院入院患者さんの退院調整、在宅医療の患者さんやご家族への指導や支援、地域医療機関との円滑な連携のための調整などに取り組んでいます。

今後とも先生方の一層のご支援、ご協力を賜りより充実していきたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

新任診療部長【主任教授】のご紹介



泌尿器科 診療部長（主任教授） 山本 新吾

このたび、島博基前教授の後を引き継ぎ、兵庫医科大学泌尿器科学教室を任せていただくことになりました。

泌尿器科は、がんのみならず、尿路結石学、小児泌尿器科学、排尿神経学、生殖医学、腎移植学など多くの分野を含んでおりますが、いずれの分野においても今後ますます求められるキーワードは機能温存と低侵襲治療です。兵庫医科大学病院は、平成19年に兵庫県下で初めて前立腺癌に対する小線源療法を開始しました。動注化学療法による膀胱温存も積極的に行っており、他施設で膀胱全摘除術を提示された浸潤性膀胱癌症例の約75%が膀胱温存に成功しています。腹腔鏡手術におきましても、腎・副腎などの腫瘍手術のみならず、生体腎移植ドナー腎採取術も腹腔鏡下に施行しています。このような先進医療のみでなく、尿路感染症、前立腺肥大症などのいわゆる身近な医療にも力を注いでまいりました。

私自身、幼少期から高校時代まで育ちましたこの地で、先生方と一緒に地域医療ができることにこの上ない誇りと喜びを感じております。先生方とより一層深い連携を保ちながら、地域医療の発展に貢献できれば本望です。今後とも末長いお付き合いを心よりお願い申し上げます。



産科婦人科 診療部長（主任教授） 小森 慎二

このたび、私は産科婦人科学講座の主任教授および診療部長に就任いたしました。

産科婦人科は、周産期部門、腫瘍部門、生殖内分泌部門に大きく分かれます。それぞれの分野でより高い専門性が大学病院には求められております。そのために教室員一同診療・研究などをおこない個々の能力の向上に努めると同時に他科の先生がたや助産師・看護師などの医療スタッフとより良いチーム医療を構築するように頑張っていきたいと考えております。それに加えて地域のさまざまな分野の医療関係者の皆様と連携を深めて、地域医療に貢献することが非常に重要なことと考えております。そのため、今まで以上に地域中心の研究會などを企画したいと考えております。最近、産婦人科医師の不足がよく取りざたされておりますが、教室には現在17名の医師が在職しております。それぞれの領域で阪神地区の拠点病院として地域の皆様に貢献できるように、教室員一同日々研鑽を重ねて行きたいと考えております。今後とも何卒よろしくごお願い申し上げます。



救命救急センター センター長（主任教授） 小谷 穰治

このたび、救急災害医学講座の主任教授および救命救急センター長に着任致しました。

私は昭和62年に山口大学を卒業後、神戸大学第一外科に入局し、関連病院での外科研修、アメリカで侵襲学の研究などを経て、2002年より当センターで救急医療に従事してきました。

当センターの位置する阪神・丹波地区（180万人）の救急医療は崩壊の危機にあり、我々の果たすべき役割はますます重要度を増しています。市中病院では対応できない重症症例の集約的治療をさらに充実させるとともに、医療資源の有効利用のためには軽快症例の逆紹介も押し進めて行かねばなりません。地域医療を担う先生方には、当センターを開かれた集中治療室と理解していただき、ご協力頂ければ幸いです。

また、学生・研修医はもとより、地域医療を担う先生方、医療者の方々に教育・訓練の場も積極的に提供してゆく所存です。

厳しい時代にこそ、医局員一同笑顔を忘れず、地域医療の充実に努めて参る所存です。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新任診療部長・部長のご紹介



麻酔科 診療部長（准教授） 多田 羅 恒 雄

この度、太城教授の病院長就任に伴い、麻酔科診療部長に就任いたしました。若輩者ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

麻酔科は、病院の中央部門であり、患者さんの麻酔・手術が安全かつ円滑に施行されることを第一の使命にしています。本学病院でも昨年の麻酔科管理症例は約5,400例で、さらに増加傾向にあります。また、本学病院のような特定機能病院では、市中病院では施行が困難なリスクの高い症例の手術を行うことが要求されます。そのためには、麻酔科の存在は非常に重要であり、常に他診療科からの手術の要望に応えられるだけのマンパワーと質の高さが必要となります。残念ながら現状では、麻酔科の人員は質、量ともに十分とはいえません。しかしながら、近年少しずつではありますが、麻酔科を研修する若手医師が増えてきています。リスクの高い症例の麻酔管理を若手医師がスタッフとともに経験することにより、麻酔科医師としてのキャリアアップを図り、同時に地域の急性期医療に少しでも貢献できますよう努力してまいります。どうぞご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



中央手術部 部長（教授） 上 農 喜 朗

平成21年4月1日より兵庫医科大学病院中央手術部長に就任いたしました。

これまで兵庫医科大学麻酔科学教室において、周術期の麻酔管理を専門に担当し、平成19年からは中央手術部兼任として、主に周術期情報ネットワークの整備に携わってきました。兵庫医科大学病院中央手術部には16の手術室があり、平成20年には年間8,253症例の手術症例が行われました。このうち、全身麻酔4,879症例をはじめとして5,427症例を麻酔科が管理しています。このように、関西でも有数の手術症例数を安全に行うためには、医師・看護師・コメディカルが、医療チームとして機能することが必要です。そのためには、正確な情報の共有と、日ごろからチームの一員であるという自覚が何より大切であると思っています。貴重な医療資源である手術部を安全で効率的に運営していきたいと存じます。皆様からのご指導・ご鞭撻をよろしくお願い致します。



臨床心理部 部長（講師） 村 田 正 章

平成21年4月より臨床心理部長を拝命いたしました。

私は、兵庫医大病院開院3年目の昭和50年（1975年）7月に入職し、各診療科からご依頼いただいた患者さんの心理検査をはじめ、カウンセリングなど心理療法を行ってまいりました。世の中が複雑になればなるほど、人はストレスを感じ、そのストレスを十分に処理できなくなると、精神的のみならず身体的にも不健康に陥るという厄介な生き物です。そのストレスなどを如何にうまく処理するかで健康も保たれます。そのような中で各診療科と連携をはかりながら、こころのケアをさせて頂いております。最近では、エイズをはじめ骨髄移植、生体腎移植の患者さんと提供者、心臓血管手術前後、がん治療などのメンタルチェックならびにカウンセリングも行っております。救命救急を有する中核拠点病院での臨床心理部の役割は重要と思いますが、スタッフ数が十分に居りませんので、各方面からの要望になかなかお応えできず、非常に心苦しく思っております。

今後とも現状をご理解の上、ご指導、ご鞭撻を賜り、ご後援下さいますようお願い申し上げます。

新任部長のご紹介



医療社会福祉部 部長（准教授） 諏訪田 克彦

平成21年4月より医療社会福祉部長を担当させていただいています。私は昭和54年日本福祉大学を卒業後、福岡県北九州市にある北九州市立総合療育センター（障害児の総合病院、療育施設）の、医療ソーシャルワーカーとして勤務しました。「障害児の療育」という視点で社会福祉の現場を経験し、障害と共に生活する本人と家族を社会的に支えるのが私の役割でした。その後、大学教員を経て昨年4月から兵庫医科大学病院医療社会福祉部で勤務しています。5年ぶりに医療現場に戻りましたが、医療に関する制度や病院の機能分担など、大きな変化（DPC、医療連携パス、後期高齢者医療など）を実感しています。さらに、兵庫医科大学病院内に、がんセンター、肝疾患センター、認知症疾患医療センターなど誕生し病院組織が複雑化していく中で、兵庫医科大学病院を利用する患者さん、家族のさまざまな相談にソーシャルワーカーが取り組むことは医療社会福祉部の重要な役割と考えます。「患者さんの主体性の尊重」と「連携」を大切にして医療社会福祉部スタッフ一同「社会の福祉への奉仕」に貢献したいと考えていますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

治療最前線

● 耳鼻咽喉科外来 ～聴力改善手術について～ ●

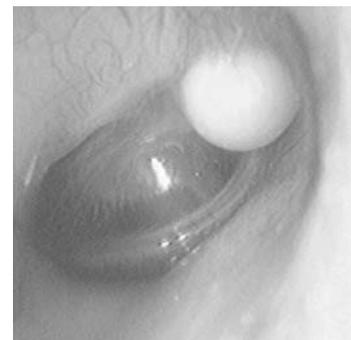
平成6年11月に阪上雅史主任教授が就任して以来、ライフワークである聴力改善手術を中心とする中内耳手術を積極的に行い症例は年々増加してまいりました。平成18年4月に三代康雄准教授の赴任に伴い、更に症例数は増加し、平成18年の中内耳手術数は年間300例を超え（鼓室形成術216例、アブミ骨手術14例）、週刊朝日による手術数ランキングでは全国3位、大学病院としては全国1位となりました。

主な対象疾患と手術は、慢性穿孔性中耳炎、真珠腫性中耳炎、癒着性中耳炎などに対する鼓室形成術、耳硬化症に対するアブミ骨手術、補聴器装用しても十分な効果の得られない両側高度難聴に対する人工内耳埋込術などで、他院術後の再手術例も多く含まれています。

また、緊急入院・手術を要するような症例にも、麻酔科や看護スタッフの協力により、柔軟に対応できるというのも特徴となっています。

平成20年5月には演題採択の厳しいことで知られるアメリカ耳科学会で阪上・三代両名が口演し、9月には阪上主任教授がアメリカ耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会で2年連続のInstruction courseを担当し、10月には阪上主任教授が第18回日本耳科学会の会長をつとめるなど、その活動は国内外で高い評価を得ています。

米国のハーバード大学医学部耳鼻咽喉科とも交流が深く、足達 治講師が基礎研究で留学し、三代准教授が臨床留学するなど、米国の最新の研究技術や医療技術を積極的に取り入れています。耳グループ各担当医師の診察日は以下の通りです。



（写真：右真珠腫性中耳炎）

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
阪上・桂	三代・足達	三代	なし	阪上・足達

専門外来のご案内

● 心房細動専門外来 ●



毎週：火曜日 午後
 担当：循環器内科 峰助教
 場所：1号館3階 内科外来（6診）
 TEL：0798-45-6200

当外来は心房細動をもつ患者さんのための専門外来として2009年3月より立ち上がりました。従来心房細動に対する治療は薬物治療が中心でしたが、最近ではカテーテルによる治療もおこなわれるようになっております。当院でも2007年4月より定期的に心房細動カテーテルアブレーション治療を行うようになり2009年2月には55名の患者さんがこの治療を受けられました。このため循環器内科では心房細動治療を重視し、心房細動専門外来を開設することにしました。この外来では心房細動に対して幅広く、薬物治療から心房細動カテーテルアブレーション治療までを扱うことにより、個々の患者さんに応じた最適の治療を提供してまいりますのでよろしくお願いいたします。

放射線画像伝送システム（PACS）を導入しました



平成21年3月16日より、本院に放射線画像伝送システム（PACS）（シナプス：富士フィルム）を導入しました。これは、放射線画像の配信や保存をLANケーブルを介して行う電子化システムです。中央放射線部で日々発生する大量の画像を電子化して保存し、各部署のオーダー端末や画像端末モニターで全ての放射線画像と読影レポートを即時的に参照できます。また、3次元表示のネットワークシステムであるアクエリアスネットを装備していますので、CT、MRIなどの断層

画像の3次元再構成画像を各端末で表示できます。患者さんへの病気の説明にも、画像端末を用いて、わかりやすく説明できます。このシステムの導入により医療の質が高まり、さらに作業効率の改善、画像表示の即時性、過去画像の比較などが容易に可能となります。これらの計画が評価され文部科学省の私学研究助成金を獲得しました。電子化システムですので、セキュリティを守るためにも、ルールを守り、快適に使用できるよう、中央放射線部画像情報室と画像サービスセンターを設置しました。患者さん、地域医療の先生方にも役にたてるシステムとし運用していきますので、よろしくご理解とご協力をお願いいたします。

産科婦人科からのお願い

● 『妊婦診』に係る当院の他診療科宛 紹介状持参について ●

当院産科婦人科では、『妊婦診』の診察に際し患者さんに合併症がある場合、患者さんの円滑な診療を確保するため、必ずその合併症について該当する診療科（部）を受診していただくこととしております。

つきましては、『妊婦診』のご紹介をいただく患者さんで合併症がある場合、必ず該当する診療科（部）宛の紹介状をご用意し、産科婦人科受診当日にその紹介状を持参の上、直接該当する診療科（部）も受診していただくよう、患者さんにご説明・ご案内をお願い申し上げます。